

令和元年度岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業受賞者の決定について

【要旨】

県では、本県三陸沿岸への研究人材の集積や海洋・水産研究の活性化を図るため、平成21年度から若手研究者を対象に、三陸をフィールドとした研究論文を募集・表彰する「岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業」を実施しています。

この度、令和元年度の受賞者を決定しましたので、お知らせします。

1 受賞者及び受賞論文について

(1) 岩手県知事賞(2件)：岩手県三陸海域を対象とした海洋研究として優れた内容のもの

部門	氏名	所属	論文タイトル
学生の部	もりや ひろき 森谷 大樹	岩手大学大学院 総合科学研究科	海藻成分を資化してバイオプラスチックを合成できる大船渡湾より単離した新規微生物
一般の部	さとう のぶひこ 佐藤 信彦	東京大学大気海洋研究所	大槌における鳥によるサケ稚魚食害について

(2) 特別賞：学生・一般の部ともに該当者なし。

今後の研究継続により、更なる成果が見込まれる研究又は独創性が高い内容のもの

2 審査経過

(1) 応募状況

10名(学生の部4名、一般の部6名)

(2) 岩手県知事賞・特別賞の選考

専門家及び有識者による選考委員会(別添名簿)において、論文及び口頭発表の審査を行い、受賞者を決定した。

第一次選考会(書面審査)10月3日(木)

第二次選考会(口頭発表審査)11月7日(木)

【参考】論文の概要について

1 岩手県知事賞(2件)

【学生の部】

氏名	所属	論文タイトル
森谷 大樹	岩手大学大学院総合科学研究科	海藻成分を資化してバイオプラスチックを合成できる大船渡湾より単離した新規微生物

【論文要旨】

海藻を原料としたバイオプラスチックの微生物合成を目指し、海藻に多く含まれるアルギン酸を資化してポリ(3-ヒドロキシブタン酸)[P(3HB)]を蓄積できる微生物を大船渡湾より新規に見出した。見出した菌株の同定試験を行いCobetia属細菌であると明らかにした。さらに本菌株を培養する際、添加するアルギン酸濃度を上げるとP(3HB)生産量が著しく増加したことから、今後のさらなる培養条件検討がP(3HB)生産量向上に寄与する可能性を示唆することができた。

【一般の部】

氏名	所属	論文タイトル
佐藤 信彦	東京大学大気海洋研究所	大槌における鳥によるサケ稚魚食害について

【論文要旨】

近年、三陸沿岸において鳥によるサケ稚魚の食害が報告されている。特に、カモメの仲間がサケ稚魚を多く食べる悪者として注目されているが、その真偽は分かっていない。調査の結果、カモメ科のウミネコがサケ稚魚を狙って河川に集まっているが、その採餌成功率は低く、食害の程度は見かけよりも低いことが判明した。また、カモメ科を対象とした被害防除を施すと、かえって他の鳥種による食害が助長されてしまう可能性を示唆された。